とくべつな君へ

sample

作／みやのん　絵／桜田洋

sample

とくべつな君(きみ)へ

sample

僕の名前はシロ。
真っ白な僕の身体を見て、ご主人がつけてくれたんだ。
温かい、お母さんの胸に抱かれて眠っていたはずなのに、目を覚ました時には
小学校の横を流れる大きな川のそばに、兄弟達と捨てられていた。

そして、いつの間にか一人ぼっちになった。
寒くて、怖くて、お腹がすいて
悲しくて・・・
弱々しい声で泣いていた僕を見つけてくれたのは、小学２年生のヒロくんだった。

sample

でも、玄関先で僕を抱いて帰ったヒロくんを見て、
お母さんは困った顔をして言ったんだ。
「元の場所に返してきなさい」
「嫌だ、僕、この子と一緒にいたい」
「生き物のお世話はとても大変なのよ？
お散歩やご飯をあげたり、毎日きちんとやってあげないと。
お母さんのお手伝いもしないで、遊んでるヒロくんにできるかしら？」
ポタッ。ポタッ。ポタポタポタ。
僕の頭に何かが落ちてきた。
顔をあげると、ヒロくんの目から大粒の涙が溢れていた。
「ぼっ、ぼく・・・ひっく・・お散歩も、ひっく・・・ご飯も・・毎日きちんとやる。
約束するから。この仔犬をお家で飼ってもいい？」
泣きながらうったえるヒロくんを見て、お母さんの困った顔は、
急に優しい顔になって笑った。
「約束よ」
その日から僕は、ヒロくんの家族になった。

Sample

僕はヒロくんのお家にやってきて
ご飯を沢山食べた。そのおかげで
ヒロくんと遊んだり、散歩もできる様になった。
ヒロくんと散歩に行くのが、僕の一番の楽しみだ。
「よーし、出発進行！」
ヒロくんは好奇心旺盛で、いつもいろんなところに冒険に行くんだ。
田んぼのあぜ道や、菜の花畑。
近所の公園。

sample

sample

ためしよみ

は

ここまでです